

# リタイア後の生きがい

## ～熟年土木屋のボランティア活動(CVV)～



金山正吾  
KANAYAMA Shogo  
フェロー会員  
CVV 事務局長



### CVV の芽生え

CVVは、シビル・ベテランズ&ボランティアズの略称である。土木学会関西支部 FCC の構想により誕生した(2005年3月号「特集」参照)。

社会基盤を支える土木事業は、公共の利益を考慮する行政の計画と営利を目的とする企業活動によって実施されてきた。土木技術者は、行政あるいは企業の一員として社会に役立つ気概をもってその役割を果たしてきたが、定年退職後は一個人に戻ってしまい、高度の能

力を発揮できる場がなくなる。

ところが、実質は高い見識のもと、生活者の視点から社会基盤整備に貢献するシビルエンジニア・ベテランズとして活動できるのではないかと、そこで、自主的に結集した土木技術者OBにより広範なネットワークを構成し、中立的な立場から助言や情報提供を行い、公共事業がより一層社会に組み込まれるシステムを開発する、という構想が生まれた。

FCC が、この構想を土木技術者OBに示してアンケート調査を実施したところ、回答者の8割余りの人がこのような活動に興味があると答えた。

そこで、このアンケート回答者の生の声を聞くべく、フォーラム「もう一肌ぬぎませんか?～シビル・ベテランズ登場への期待～」を実施した。1998年10月のことである。このフォーラムにおいて参加者は具体的な活動を待ちわびていると

いうことが実感され、1999(平成11)年1月の「CVV 発足会」を迎えることになるのである(図-1)。

### これまでの取組み

CVVでは、「まちづくり」、「防災」、「技術伝承・アドバイス」の3グループに分かれて活動している。

ここでは、「技術伝承・アドバイス」グループについて紹介することにした。

まず“メンバー個人個人が楽しく”を、活動の前提とした。また、事務面の基本として“連絡は全面的にメーリングリストによる”ことにした。これが、その後のCVVを活性化させる最大の要因になったといっても過言ではない。

さて、問題は具体的に何をやるかである。当初1～2年は、そういう議論の空転ばかりしていたように思う。この間の結論は、テーマの価値にこだわるよりは、“CVVが実践可能なテーマに積極的に取り組み”ということである。



図-1 CVV 活動の柱





写真-1 中之島の橋巡り隊 集合!



写真-2 夢舞大橋を望む

今日に至る7年間に実施した活動を以下に一括して報告する。

### 市民見学会の実施

一般の人に土木のことをよく知ってもらうため、「市民見学会」を年間4回のペースで実施した。土木遺産と言われる歴史的な構造物や市民にあまり知られていない最近の有益な社会基盤施設などを積極的にPRした。その見学会の主なものを紹介すると、「中之島の橋巡り」(写真-1)、「舞洲ぐるっと探訪」(写真-2)、「神戸・布引のダムと滝を訪ねる」(写真-3)、「上町台地の緑の森を訪ねて」(写真-4)、「都市の水・今と昔」(写真-5)などがある。



写真-3 布引の滝を見上げて

これらの見学会は、CVVメンバーが輪番で幹事を務め、企画から実施に至るまで万端司るシステムとしている。各人の得意な楽しい計画が実現した所以である。

“上町台地の緑の森シリーズ”は大阪の史跡の紹介も多いので最も人気が高く、これまでに3回を数えた。毎回80名近い参加者があり、次回を楽しみにしている人も多い。案内はホームページや新聞のイベント欄を利用するが、広報力の弱さを痛感している。

### 総合学習の支援

子どもの教育は、国の最も重要な課題である。自ら学ぶ意欲、自

ら考える力を育てる“総合的な学習”が制度化されて何年かが経過した。総合学習は、学校のみだけでは不十分で、地域社会の協力なしには達成されない。

CVVはこの点に着目し、積極的に支援を図ってきた。このことは、将来の優秀な土木技術者を生む可能性につながるものでもある。

具体的な事例について、順次紹介することにした。

「ウイークエンド・子ども・いきいき体験事業」は(財)兵庫県青少年本部の助成制度で、CVVがこれに応募して“親子で挑戦・お箸で橋づくりコンテスト”を実施した。親子2~3名からなる10チームが、そ



写真-4 天王寺公園入口で、見学案内を聞く



写真-5 住之江抽水所見学 ご苦労さま





写真-6 箸の橋づくりに熱中

それぞれの発想により、割箸と接着剤を駆使して夢の橋をつくりあげる競技である。CVVメンバーは、アシスタントを務めながら、ともに楽しむことができた(写真-6)。

神戸市の「花のフェスタこうべ」は、毎年春の連休頃に2日間開催される。この中に「土木の学校」ブースがある。ここでは、小学生に「模型ブロックによるアーチ橋」や「木工

細工の模型トラス橋」の組み立てを通して橋の仕組みを学んでもらう。また大勢で、約3mスパンのアーチやトラスの実橋も組み立て、みんなで渡り初めをしてもらって、上木の仕事に興味をわかせるような体験型イベントを行っている(写真-7)。CVVは、子どもたちの指導役を任せられ、毎年楽しんで協力をしている。なお、この「橋の教室」は、「土木の日」関連行事として国土



写真-7 アーチ橋は強いぞ～



写真-8 「わがまち探検隊」壁新聞

交通省のイベントにも歓迎され、積極的に参加している。

大阪市大正区のとある小学校の総合学習「わがまち探検隊」の時間に恒常的に組み込まれ、昨年で4回目の支援を数えた。たとえば、「わがまち大阪、世界の人に紹介しよう」プランは、6年生が10人単位の班を編成し、班ごとに自主的に探検計画を立てる。CVVのメンバーがその計画を吟味し、各班に1名ずつ同伴して随所で補足説明を行うというものである。

子どもたちとの半日4時間程度の交流ではあるが、強い信頼の絆ができ、事後にまとめられた壁新聞(写真-8)にお礼状を添えて送られてくる。それに対するCVVメンバーの感想を学校に届けるという形で、子どもと社会のふれ合いという貴重な関係が生まれることも、微笑ましい。

「土木の学校」主催の夏休み「土木





写真-9 「橋の力学」講座を聴講

の教室」が毎年開かれる。小中学生に「橋の強さ」の話(写真-9)を聞かせた後、石膏でブロックをつくってアーチ橋を組み立て、その強さを体感させるものである。ブロックは、厚紙で型枠をつくり、溶かした石膏を流し込んでできあがる。CVVメンバーは、教室内を見回りながら適宜助言を与える。正確さが求められる、高度な作業である。

東京日本橋が発祥とされる「橋洗い」イベントを、大阪でも始めた。橋を愛し、川を愛し、まち興しにつなげようという趣向である。北新地の繁盛を促すかどうかはともかく、最寄りの中之島ガーデンプリッジに、秋の1日老若男女が結集した。地区の小学校児童も参加して、ごしごしと橋を洗い汗を流す。この児童たちには、ご褒美に水陸両用バス「未知普請号」に乗って「わがまち・川」の探検が待っている。そのときの「語り部」を受け持つのが、CVVメンバーである(写真-10)。

## これからの目標

CVVは、より高度な社会貢献を目指している。

「土木技術」に関して、一般市民あるいは経験の浅い技術者から疑問や相談を受け、早期に的確な「指導や助言を行うシステム」を確立する。現在もホームページの掲示板に「相談受け」をPRしているが、利用者は極少である。知名度の低さが原因と思われるので、今後ホームページに最新土木技術情報を頻りに掲載するなど、CVVの技術力PRに努めたい。

さらには、「建設事業にかかるトラブル」についての解決アドバイス役が十分に果たせるよう努めたい。たとえば、トラブル事例を仮想して、その解決への「アドバイスのトレーニング」を重ねるとか、世間に実在するトラブルに関して自らの見解をホームページに発表するとか、実力の涵養と知名度の高揚が必要と考える。

また、NPO法人化の問題がある。一時のブームは、多くの破綻法人を生んでいるとも言われる。CVVの

現在の人材・陣容からすれば、法人化が望ましいと一概には言えない。しかし、起業に適した素材を見つけ、能力と情熱を兼ね備えた人材を確保することができれば、適正規模のNPO法人を立ち上げることに、やぶさかではない。

現にCVVメンバーである「水道オーソリティー」は、「水未来研究会」というNPO法人を指向している。事業の内容は、中小都市の水道事業者からの依頼により、現在の「取水・送配水システム」を点検して「システム全般の効率化」を検討・提案するものである。

以上、CVVの誕生から将来までも含めて、かいつまんで記述した。読者の皆様に多少でも参考になる点があれば幸いである。なお、ホームページ(<http://www.cvv.jp/>)もあわせてご覧いただきたい。また、この場をお借りして、同志を募る次第である。



写真-10 水陸両用バス「未知普請号」に乗って